

SDGs未来都市白山市の賑わい創出事業(総括)

—白山・手取川ジオパーク国際認証後のSDGs観光を視野に—

団体名 ● 新ゼミナール、曾我ゼミナール、宋ゼミナール、齋藤ゼミナール、石川ゼミナール、梅田ゼミナール、牧野ゼミナール
代表者名 ● 新広昭(副学長・経済学部教授)/曾我千春(経済学部経済学科・教授)/宋涛(経済学部学科経済学科・教授)/齋藤千恵(人文学部国際文化学科・教授)
石川美澄(経済学部経営学科・准教授)/梅田充(経済学部経営学科・講師)/牧野耀(経済学部経営学科・講師)

はじめに

本事業は本学と白山市との包括連携協定に基づいた事業の一環として、地域連携センターの「地域連携による地域貢献活動」推進事業の補助を得て実施したものである。

白山市は国の「SDGs未来都市」に認定されているが、その大きな目標として掲げているのが「白山手取川ジオパーク」のUNESCOによるジオパークの認定である。UNESCOから認定の条件として示されているのが産学官市民のパートナーシップによって認定に向けた大きなムーブメントを起こしていくことである。そこで、松任駅をはじめとするいくつかのゲートウェイを設定し、そこに交流人口を呼び込み白山らしくにまで誘導することにより白山市全体の賑わい創出につなげるという戦略のもと、観光学、マーケティング、地域経済、社会保障、管理会計など複数ゼミの専門性を活かした活動を展開し、SDGs未来都市白山市のプロモーション及び白山手取川ジオパーク国際認証の機運盛り上げの一助とすることを目的として実施した。

活動内容

学内の各ゼミに本事業への参画を呼びかけたところ、曾我ゼミ、宋ゼミ、齋藤ゼミ、石川ゼミ、梅田ゼミ、牧野ゼミの参画を得、新ゼミと合わせて7ゼミでの活動となった。

個別ゼミの活動報告及び成果、結果については本ページ右段後半に新ゼミの活動を記載し、他のゼミは次ページ以降にゼミごとに記載する。

今後の課題、展望

2022年12月、UNESCOの評議会が「白山手取川ジオパーク」について認定に向けた勧告を行うことを決定し、2023年5月に開かれる執行委員会で承認されれば、「世界ジオパーク」認定が正式に決まることとなった。認定を契機に白山麓の観光開発が進むものと思われるが、開発の仕方については観光庁の「持続可能な観光ガイドライン」(JSTS-D)に沿ったものにするには必須であろう。本事業で各ゼミが取組んでいるテーマはまさにJSTS-Dの評価項目に沿ったものと言えることから、来年度以降も本テーマでの事業を拡充したいと考えている。

新ゼミナールの活動

松任駅南側地区の賑わい創出

新ゼミナールでは、白山市の鉄道のゲートウェイである松任駅の交流人口増を図ることを目的として、松任駅の南側地区に立地する千代女の里俳句館、松任中川一政記念美術館、松任ふるさと館、白山市博物館といった優れた文化施設やを紹介し、それぞれの施設の展示物と白山との関連をアピールする動画を作成し、YouTubeで配信する取組みを行った。

また、これらの文化施設と松任駅から約500m南側の旧北国街道沿いに立地する「まっとうまちなか商店街」との間の回遊性を作り出す試みとして「SDGs松任つるべとられ道スタンプラリー」を2023年3月22日、23日の2日間行った。これは、同商店街組合と白山市商工課との連携活動として実施した。

